

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城南中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生（小学6年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学（算数）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

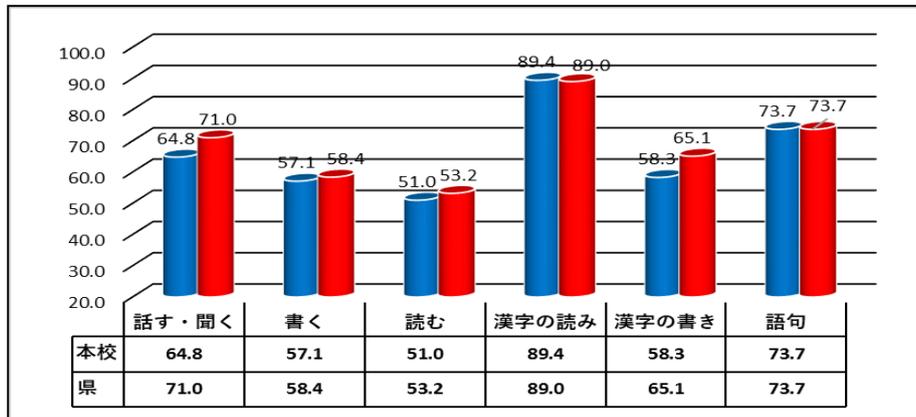
◆ 1・2年生の学習状況調査結果について

1・2年生については、3年生の全国学力学習状況調査に併せて佐賀県小・中学校学習状況調査を実施しましたので、その結果を掲載しています。

■調査結果及び考察

国語（1年）

(1) 結果



- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主要領域において県平均を下回っている。
- 文章を正確に読み取ることを苦手とし、内容ごとのまとまりを意識して文章を読むことができていない。
- 人の話をしっかりと聞くという習慣がついていない生徒がいる。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと （目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）	
考察	・話し方に見られる工夫を理解できておらず、内容の理解にも影響している。
課題	・接続表現や話の組み立てを意識して話すこと、聞くこと。
対策	・授業で得た技術(接続表現や話の組み立て方)を使って自分で文章を書く。 ・短い時間(内容)のスピーチや話し合い活動を定期的に取り入れ、主体的に話したり聞いたりする経験を積み重ねる。
書くこと （相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）	
考察	・推敲や見出しを付けることには経験不足がみられる。条件に合わせて書くことには二極化がみられ、無回答率も高い。設問内容・解答の条件を正しく読み取れていない。
課題	・条件に合わせて文章を書くこと。 ・文章を書くという経験を数多く積むこと。
対策	・考えるだけでなく、話したり書いたりしてカタチにする機会を数多く設ける。
読むこと （目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）	
考察	・読むことには大きな抵抗もなく取り組んでいるが、話の展開(内容ごとのまとまりや前後のつながり)や話の主題について考えることには経験不足がみられる。
課題	・話の展開に注意して読み、内容を整理し話の主題について考えること。
対策	・形式段落、意味段落ごとの内容整理。
伝統的な言語文化と特質に関する事項 （音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）	
考察	・漢字の書きにおいて無回答が多く、知識が定着していない。
課題	・文脈の中で適切に言葉をつかう語彙力と漢字の知識。
対策	・継続的な漢字学習と定期的なテスト。

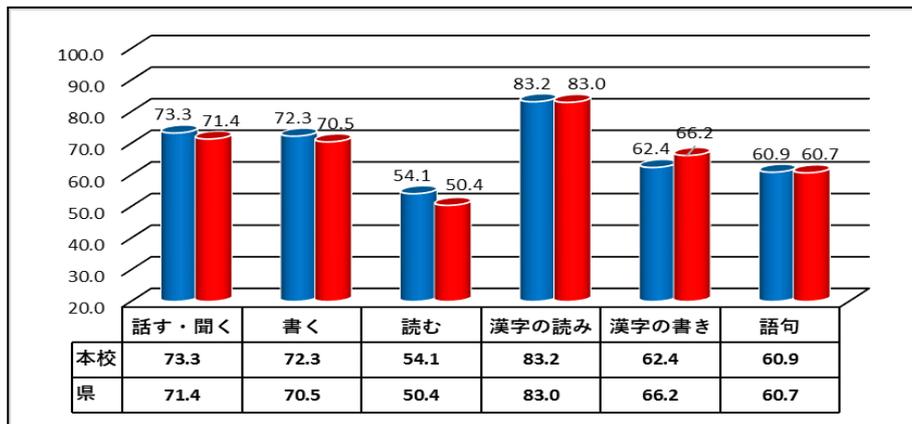
ご家庭へのお願い

- ① 文章を読んで要点や話者の意図をとらえることは、子どもたちにとってたいせつなものになります。新聞やニュースの内容、学校での出来事などを話題に、ご家庭での会話を楽しんでください。
- ② 日記を書くことや時間を決めて短時間の読書をすることによって知識と理解力が高まります。

■調査結果及び考察

国語（2年）

(1) 結果



- ・「漢字の書き」以外の項目で県の平均を超えることができた。
- ・一年時は「漢字の読み」「漢字の書き」「語句」の項目が県平均を下回っていたので、言語事項の領域が改善されつつあると考えられる。今年度下回った「漢字の書き」においても、昨年の－10.0ポイントが－3.8ポイントへと改善傾向にある。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと （目的や場面にに応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）	
考察	・基本的な内容は全般的に良くできているが、活用力が弱い。
課題	・話し合いの話題を捉えながら、自分の考えをまとめ、資料や自分の経験を根拠にして話すこと。
対策	・結論（意見）に対して論拠を明らかにするだけでなく、「意見・根拠・理由付け」の三角ロジックを用いて、よりの確に発言できる場を多く設定する。
書くこと （相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）	
考察	・集めた材料を分類するなどして整理する（見出しを付ける）ことはよくできていた。
課題	・課題に応じて材料を集めること
対策	・課題に対して、どのような材料をどのように集めたらよいかを主体的に考察する場を作り、意見の交流を通して改善させていく。
読むこと （目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）	
考察	・文章の種類に偏らず、読むことには抵抗なく取り組むことができる生徒が多い。
課題	・読むことに抵抗がある生徒への手立て
対策	・まずは、読むことの基礎となる、言語事項の指導をの場を増やしていきたい。
伝統的な言語文化と特質に関する事項 （音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）	
考察	・全般的に改善傾向が見られるが、継続して指導する必要がある。
課題	・漢字学習の工夫
対策	・授業時の取り上げ方や、小テストなどの指導を工夫するとともに、家庭での反復学習のあり方などを生徒自らが工夫し、その情報交換をさせることで、よりの確な学習法を自覚させる。

ご家庭へのお願い

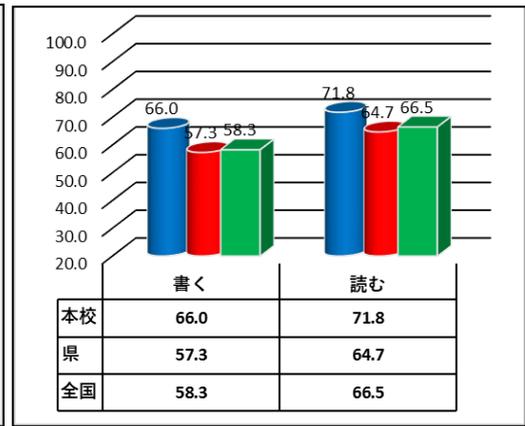
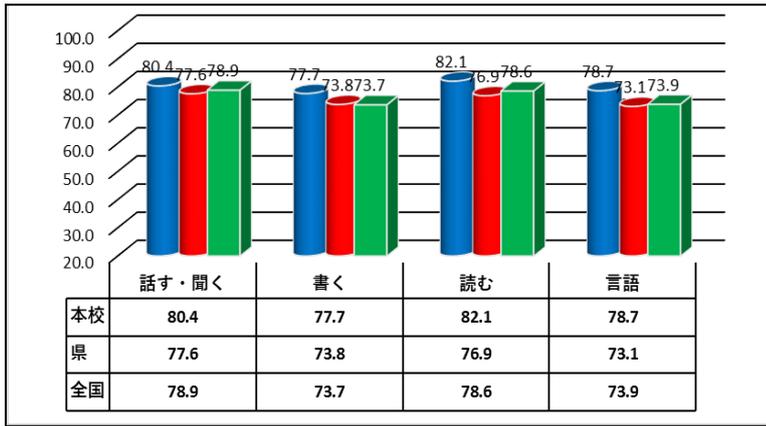
- ① 新聞を読み、ニュースを聞くことを通して、子どもの考えていることを聞く場面を増やし、ご家庭での会話を楽しんでください。今まで聞き慣れなかった言葉が出てきたときや、深く考えている思いが言葉になったときなどに、その確かな成長を承認していただけたらと思います。
- ② 家庭での学習の習慣化のため、「時間・場所・もの」の確保にご協力ください。

■調査結果及び考察

国語（3年）

(1) 結果（A：知識）

結果（B：活用）



○昨年度の課題であった「話す・聞く」が改善傾向にある。

○記述式の正答率が上がってきている。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

話すこと・聞くこと（目的や場面に応じて、筋道を立てて話したり聞き取ったりする力）

考察	・国語に限らず、授業や学校生活の中で「話し合い」「学び合い」を習慣的に行っている効果が出ている。
課題	・相手や聞き手を想定して適切な対応や場に応じた表現を考えることが苦手である。 ・話の要点をつかむ問題に課題が残る。
対策	・情報を正しく受け止め、適切に使い分けるために、情報活用能力を高めることを目指した学習を行う。

書くこと（相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く力）

考察	・全体的に正答率が高く、無回答率が低い。伝えたい事柄について根拠を明確にして書こうとする態度がみられた。
課題	・条件に沿った説得力のある文章表現ができるところまでは至っていない。 ・接続語や文末表現に不十分な点がみられた。
対策	・授業の中で短文を多く書く機会を設け、正しく書く力をつける。 ・国語以外の場面で、相手に伝えられるような文章を工夫して書くようにする。

読むこと（目的に応じて様々な文章を読み取ったり、読書に親しんだりする力）

考察	・朝読書に限らず、本をよく読む生徒が多く、読むことに対する抵抗が少ない。 ・授業で新聞のコラムを読んでいるため、徐々に説明的文章にも慣れてきている。
課題	・説明的文章では、筆者の主張やその根拠を明確にできない生徒も多い。 ・文章構成を考えながら読み取る習慣をつける必要がある。
対策	・朝自習の時間を利用し、小説だけでなく多様な文章に触れる機会、苦手な文章に積極的に取り組む意欲を育てる。

言語事項（音声、語句・語彙、文法、文字を正しく整えて書く力）

考察	・課題として漢字を毎日書いているので、正しく漢字を読んだり書いたりする力は定着している。しかし、語句を正しく使い分けるところまでは至っていない。
課題	・辞書を活用する回数が少ないため、その活用の知識が不十分である。 ・語彙を場に応じて使い分けることができていない。 ・文字を丁寧に書く習慣がついていない生徒も多い。
対策	・授業の中で辞書を活用する。 ・ことばの力を生活の中に生かせるよう、様々な場面で言葉を考えて使うようにする。

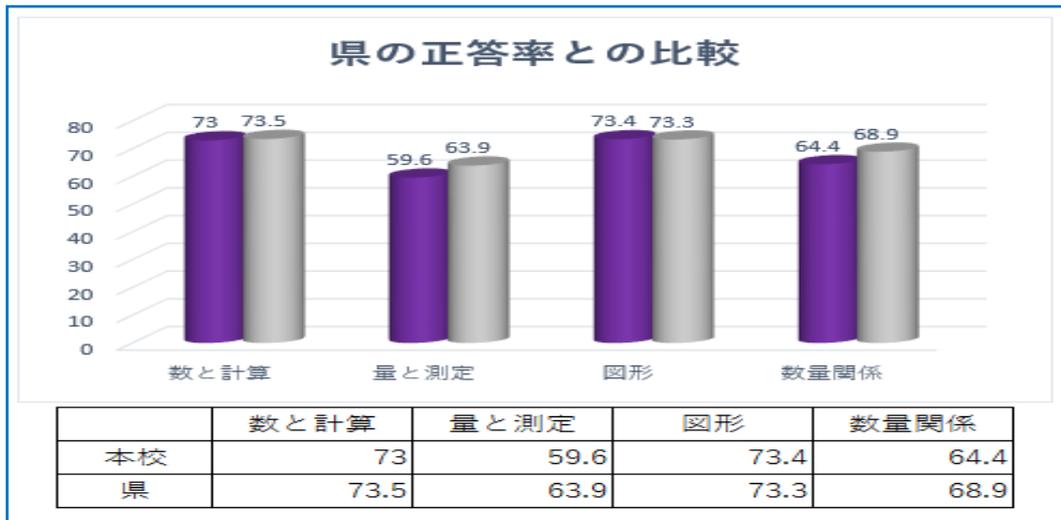
ご家庭へのお願い

- ①毎時間、新聞のコラムを読ませていますので、その話題を家庭での会話の中で取り上げてほしいと思います。
- ②正しい敬語や言葉遣い、故事成語やことわざを使う機会を増やしてほしいと思います。
- ③正しい姿勢で整った字を書く習慣をつけてほしいと思います。

■調査結果及び考察

数学（1年）

(1) 結果



- ・「数と計算、図形、数量関係」の領域では、県平均正答率とほぼ同じであるが、「量と測定」の領域では、県の正答率よりも少し下回っている。
- ・全ての設問において無回答率が低いため、意欲的に設問に取り組んでいると言える。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と計算 （小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など）	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高い。 ・分数や小数のかけ算に対する苦手意識はすくない。
課題	・計算力を定着すること。
対策	・定期的な小テスト、すくすくテストを実施する。
量と測定 （図形の面積、速さ、量と単位など）	
考察	・大きい単位を小さい単位へと変換する問題を苦手としている。
課題	・単位の意味を理解すること。
対策	・文章問題における単位の意味についても解説をする授業を取り入れる。
図形 （点・線対称の図形など）	
考察	・線対称な図形について、多くの生徒がよく理解できている。
課題	・演習の長さを、半径の長さを用いて求めること。
対策	・観察や操作、実験などの活動をとおして理解を深める。
数量関係 （比、比例と反比例、並べ方と組み合わせ方など）	
考察	・苦手意識をもっている生徒が多く、ほとんどの問題で県の平均を下回っている。
課題	・正比例や反比例など、2つの数量関係を捉えること。
対策	・日常生活の具体的な場面を用いて指導工夫する。（電気料と金額など）

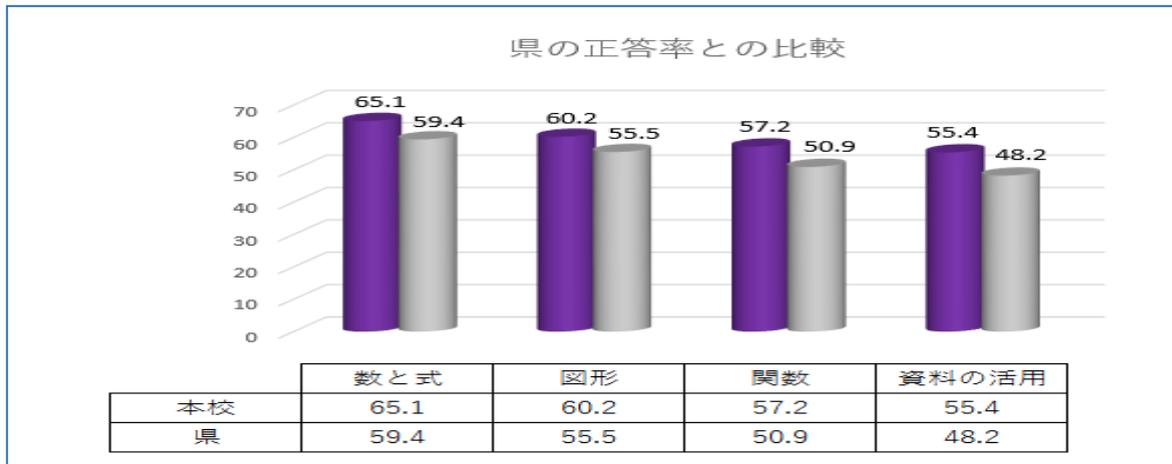
ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、再度、家庭で取り組みましょう。
- ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考えてみましょう。
（様々な建造物や物体から形の名称・面積・体積、時刻表から電車の平均の速さなど）
- ・一緒に買い物に行って、商品の金額を想定させましょう。
（合計、割引、個数と金額、消費税8%と10%）

■調査結果及び考察

数学（2年）

(1) 結果



- ・全体としてすべての領域で県平均正答率を上回っている。
- ・無回答率が低く、あきらめずに最後まで解こうとしている生徒が多い。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と計算 （小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など）	
考察	・基本的な計算問題は正答率が高く、基礎・基本が定着している。
課題	・分数を含む方程式や数量関係を式で表すこと。
対策	・定期的な小テストや「すすくテスト」を実施し基本的な計算力の定着を図る。
図形 （図形の面積、速さ、量と単位など）	
考察	・公式や名称などは覚えているものの、その意味を理解できていないため応用問題の正答率が低い。
課題	・扇形の面積を求めること、立体と展開図の関係、作図の意味を理解すること。
対策	・授業の中で互いに説明し合う場を設定することで、理解を深め応用力をつけさせる。
関数 （比例・反比例など）	
考察	・比例・反比例を表す式やグラフの特徴についてよく理解している。
課題	・与えられた情報を基に、 x と y の関係について説明する「活用」の問題を苦手としていること。
対策	・観察や操作、実験などの活動をとおして理解を深め、授業の中で説明し合う場を設定する。
資料の活用 （近似値、中央値、相対度数、度数分布表など）	
考察	・基本的な用語や知識は身につけている。
課題	・取り扱う時数が少ないことから、重要な知識を忘れる傾向があること。
対策	・知識を定着させるために、定期的に復習問題に取り組みさせる。また、すすくテストなどの小テストを実施する。

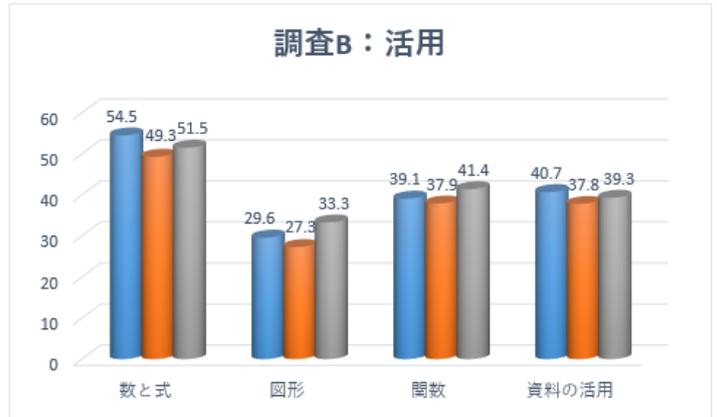
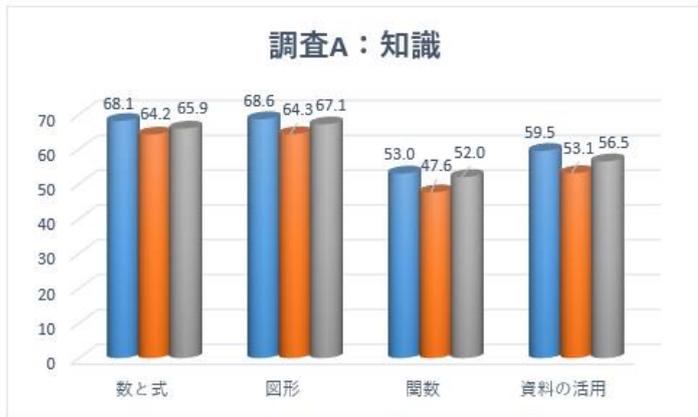
ご家庭へのお願い

- ・授業で取り扱った内容を、再度、家庭で取り組み(復習)、予習をして授業に臨みましょう。
- ・日常生活の場面で、数学的な課題を見つけ、楽しみをもって一緒に考えてみましょう。
(身近な建物や物体から形の名称・面積・体積、関数関係にある事象の考察など)

■調査結果及び考察

数学（3年）

(1) 結果



	数と式	図形	関数	資料の活用
本校	68.1	68.6	53.0	59.5
県	64.2	64.3	47.6	53.1
全国	65.9	67.1	52.0	56.5

	数と式	図形	関数	資料の活用
本校	54.5	29.6	39.1	40.7
県	49.3	27.3	37.9	37.8
全国	51.5	33.3	41.4	39.3

- ・ A問題はすべての領域で県平均正答率を大きく上回っている。
- ・ B問題はすべての領域で県平均正答率を上回っている。特に、「資料の活用」の分野の正答率が非常に高い。

(2) 考察、課題と学校での取り組み

数と計算 (小数・整数・分数の混じった計算、分数のかけ算とわり算、文字と式など)	
考察	・ 計算処理能力は高く、正答率が高い。
課題	・ 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理すること。
対策	・ 文章題において、問題文の中から重要な数値や情報を抜き出したり、アンダーラインをしたりするなどして、情報を常にまとめさせるようにする。
図形 (点・線対称の図形など)	
考察	・ 基礎的な図形の知識は身につけており、回答率が100%の問いも多くあった。
課題	・ 立体の見取り図や図形を平行移動してできる立体を考える問題などに弱く、空間処理能力向上が必要である。
対策	・ 空間図形を利用した問題を解く際に、模型や具体例を出すことで理解を深めさせる。
関数 (比例・反比例、一次関数など)	
考察	・ 一次関数や反比例のグラフの特徴をよく理解していて、増加量に関する計算問題の正答率が高い。
課題	・ 一次関数の変域に関する問題の正答率が全国平均に比べて低い。
対策	・ 朝学習の時間を利用して変域についての理解を深めさせる。
資料の活用 (近似値、中央値、相対度数、度数分布表など)	
考察	・ 基本的な用語や知識が身につけていて、理解度は高い。
課題	・ 近似値と誤差の理解度が低い。
対策	・ 朝学習の時間を利用し、反復練習を行うことで内容をより深めさせる。

ご家庭へのお願い

- ・ 授業中に分からなかった内容は、その日のうちに理解するように努めてください。
- ・ 1年～3年の単元の中で、苦手な分野は早めに復習に取り掛かろう。
- ・ 受験生ですので、先に先に予習をしていきましょう。

生活習慣や学習習慣に関する調査

■結果

調査項目	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
朝食を毎日食べている(「どちらかといえば、してる」を含む)	94.2	93.9	92.3	92.6	94.2	94.9
普段、11時には寝ている	73.2	75.2	52.3	50.6	23.2	38.9
毎日同じ時刻に起きている(「どちらかといえば、してる」を含む)					79.7	78.4
平日2時間以上テレビを見る	56.3	57.8	52.9	57.5	51.4	49.6
平日2時間以上ゲームをする	25.0	26.4	25.7	28.7	28.9	30.3
平日2時間以上通話やメール、インターネットをする	14.0	15.6	25.6	22.8	27.5	25.9
平日読書を30分以上している	39.3	39.2	32.0	35.6	44.9	31.5
学校図書館や地域の図書館を全く利用しない	33.1	29.2	44.9	36.0	54.3	47.5
新聞を読んでいる					19.5	20.7
地域の行事に参加している	56.0	73.2	41.7	59.7	26.3	49.0
家の手伝いをしている					63.0	70.1
新聞やテレビ、インターネットでニュースを見るか	82.6	80.0	74.3	78.3	89.1	87.4

■考察

《1年生》

【実態】

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは概ねできていると言える。
- ・地域行事の参加については、半数は参加しているが、県平均と比べると20%以上低い。
- ・ゲームについては、長時間している(4時間以上)生徒が3%ほど多い。
- ・読書については、30分以上読書をしている生徒が県平均よりも若干高いが、全くしないという生徒もいる。
- ・多くの生徒がテレビやインターネットで、ニュースを読んでいる。

【対応】

- ・地域行事への積極的な参加・協力を促すよう、呼びかけを行っていく。
- ・テレビやゲーム、就寝時間についての見直しやルール作りを学校や家庭でしっかりと行う。
- ・朝読書や読み語りの時間の充実等を行い、読書習慣をさらにしっかりと身につけさせる。

《2年生》

【実態】

- ・11時までには就寝している生徒は、学年が進むごとに極端に減っている。
- ・2時間以上、通話、メール、インターネットを見ている生徒が7%くらい増えた。
- ・図書館を利用する生徒が減少傾向にある。

【対応】

- ・通話、メール、インターネットなどスマートフォン、携帯の使い方、利用時間、情報モラルなど、利用方法やマナー等について十分な指導を行い、就寝時間等も含め、望ましい生活習慣の確立につなげる。
- ・読書を好きな生徒が多い。引き続き朝読書を徹底し、読書習慣の向上を図っていく。

《3年生》

【実態】

- ・平日に2時間以上通話やメール、インターネットをする生徒が30%近くいる。
- ・1日当たりテレビやビデオ、DVDを3時間以上みたりする生徒が30%近くいる。
- ・新聞を全く読まない生徒が約63%おり、県平均と比べて多く、活字離れが懸念される。
- ・地域の行事に参加する生徒が県の平均以下と、大変低い数字になっている。

【対応】

- ・メールやインターネット等の使用について、家庭と連携しながら情報モラルに関し指導をしていく。

○ ご家庭では

- ・家族の話あい中でのルールづくりをお願いします。(ゲーム、TV、インターネット・・・)

家庭学習に関する調査

■結果

調 査 項 目	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
平日2時間以上勉強している(塾・家庭教師を含む)	23.3	22.7	28.0	26.6	31.8	26.0
学習塾(家庭教師)で勉強している	78.4	81.9	72.6	72.6	64.5	65.0
自分で計画を立てて勉強している(「どちらかといえば、してる」を含む)	61.7	65.7	60.5	55.0	39.2	49.2
家で、学校の宿題をしている(「どちらかといえば、してる」を含む)	97.4	97.0	98.1	93.3	97.8	92.8
家で授業の予習をしている	68.9	52.8	66.9	40.9	42.7	33.8
家で授業の復習をしている	69.5	63.2	80.9	61.3	58.4	57.2

■考察

《1年生》

【実態】

- ・本校は県平均に比べ、予習、復習などの家庭学習に取り組んでいる生徒は若干多い。しかし、「自分で計画を立てて取り組んでいる生徒」の割合は県平均を下回っていることから、自分にどんな学習が必要かを考えて取り組んではいけないと思われる。
- ・約8割の生徒が2時間以下の勉強時間であり、昨年度(現2年生)より減っている。

【対応】

- ・学習の仕方が分からない生徒もいると思われるため、自分で学習を進める方法の指導を行う。
- ・将来の進学や就職について考えさせる機会を設定し、学習に対する意識を高める。
- ・自己肯定感をもって自己実現を果たしていけるよう支援する。

《2年生》

【実態】

- ・全体的に、県平均を大きく上回っており、学習への取り組みは良好である。
- ・予習復習等与えられた課題はこなしているが、学習時間が2時間未満の生徒が72%と多い。

【対応】

- ・生徒が主体的に取り組む、授業がわかって楽しくなるような家庭学習の課題を工夫する。

《3年生》

【実態】

- ・平日2時間以上勉強している生徒や、家で授業の予習をしている生徒の割合は、県平均よりそれぞれ5.8%、8.9%高く、授業に対してきちんと準備をして取り組む生徒が多い。
- ・学校の宿題はほとんどの生徒ができており、県平均より5.4%高いが、自分で計画を立てて勉強している生徒は県平均より10.0%低く、学習態度が受け身であるように思われる。

【対応】

- ・家庭学習の取り組みは県平均よりはよいが、受験期にある3年生なので、学年+1時間は学習時間の確保は必要である。家庭学習の必要性を認識させ、生徒一人ひとりが、より自主的に学習に取り組むような教師の支援、指導を行う。

○ ご家庭では

- ・将来の進路について親子で話しあい、夢や目標、自分を大切にすることを育ててください。
- ・人と比べるのではなく、自己ベストを更新していく姿を認め、励ましてください。
- ・計画的に学習が進んでいるか、見守りや声かけをお願いします。

心の内面の様子

■結果

調査項目	1年生		2年生		3年生	
	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)	本校(%)	県(%)
学校に行くのは楽しい(「どちらかといえば、そう思う」を含む)	90.3	93.0	87.9	87.3	79.7	82.0
みんなで協力してやり遂げ、うれしかったことはある					82.6	80.8
先生はあなたの良いところを認めてくれている					76.8	74.4
社会で起きていることに興味がある					58.0	69.9
学校の規則を守っている					96.4	94.3
いじめはいけないことだと思う					90.6	94.5
人の役に立つ人間になりたい(「どちらかといえば、そう思う」を含む)	92.8	96.2	96.8	95.8	89.9	94.1
将来の夢や目標を持っている(「どちらかといえば、あてはまる」を含む)	90.3	85.2	69.8	73.2		

■考察

《1年生》

【実態】

- ・ 県平均よりは少ないが、学校に行くのは楽しいと思っている生徒は多い(90.3%)。
- ・ ほとんどの生徒が友達と会うのは楽しいと思っている(99.4%)。
- ・ 「人の役に立つ人間になりたい」と思っている生徒が多い(92.8%)。
- ・ 「将来の夢や目標を持っている」生徒が多く(90.3%)、県平均より高い。
- ・ 学校では落ち着いて学習することができていると思っている生徒(90.3%)は県平均(92.8%)より少し低い。

【対応】

- ・ 中学校3年間の進路学習を通して、将来の夢や目標をしっかりと意識させ、日々の授業の充実につなげる。

《2年生》

【実態】

- ・ 「人の役に立ちたい」とほとんどの生徒が思っているが、夢や目標を持っている生徒は少ない。

【対応】

- ・ 進路指導やキャリア教育の充実により、具体的に将来の夢や目標を持たせる。

《3年生》

【実態】

- ・ 「学校に行くのは楽しいと思う」と答えた生徒の割合が昨年に比べると低下しており、県平均よりも低い。これは、自己にかかる責任や行事、進路等の悩みやプレッシャーが増え、学校が楽しいと感じられない状態にある生徒が増加したものと考えられる。
- ・ 「みんなで協力してやり遂げ、うれしかったことはある」や、「先生はあなたの良いところを認めてくれる」と答えた割合は県平均よりも幾分高い。
- ・ 地域や社会で起きている問題や出来事に関心のない生徒が約40%いる。
- ・ ほぼ100%の生徒が学校のルールやマナーを守っている。
- ・ 人の役に立ちたい、将来の夢や目標をもっているという生徒の割合が、県平均と比べると低い。

【対応】

- ・ 学校行事などをとおして充実感を共有し、さらに学校が楽しいと感じさせようとする。
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ると答えた生徒は約9割もいるので、さらに興味をもつように、普段の生活でも話題に出すようにする。
- ・ 進路学習を充実させ、将来の夢や目標の実現に向け、主体的に取り組む態度を育む。

○ ご家庭では

- ・ 進路選択や受験を控え、緊張感を持った子どもさんがほとんどです。子どもたちの悩みや変化に気づくためにも、家族で「会話」する場をもってください。
- ・ ご家庭では、「おはよう」から「おやすみ」まであたりまえにあいさつを交わし、励ましの声かけをされて、安心できる居場所を作ってください。